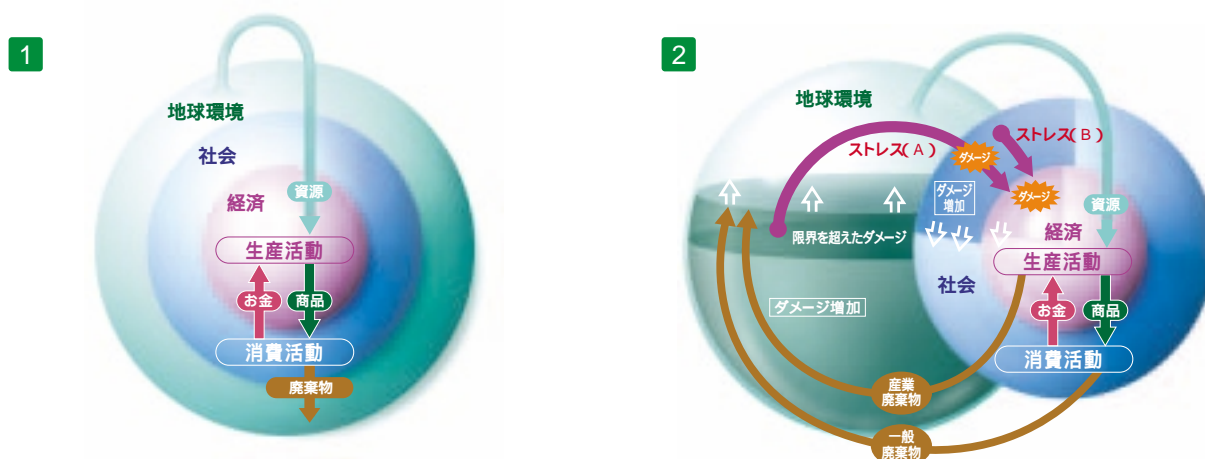


社会全体の環境負荷を、地球環境の回復力の範囲内に抑えることが、これからの私たちに求められています。

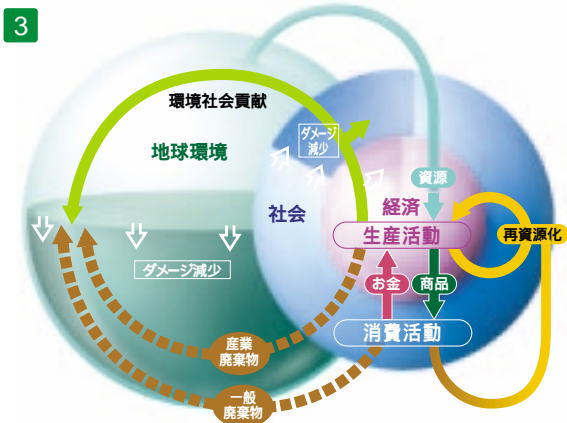
地球環境と社会との関係を表す「Three P's Balance™」



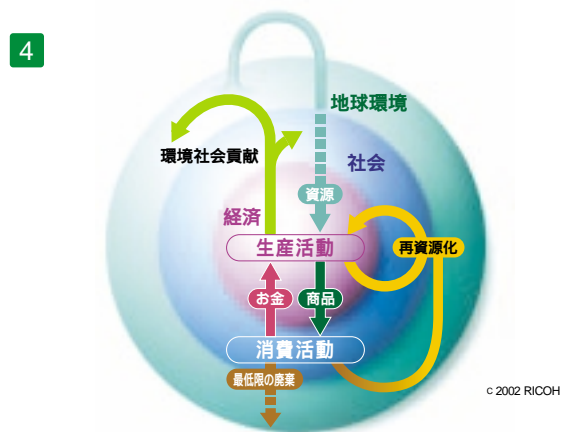
かつて人間社会から排出される環境負荷は、自然の回復能力の範囲内に留まっていた。しかし、産業革命以降、環境負荷は急激に増え続け、2050年には地球が3つ必要になるとも言われています。よりよい環境を取り戻すための重要なキーを握っているのは企業です。企業が、真剣に、そしてリーダーシップをとって環境保全に取り組む必要性は、「環境」「社会」「経済」活動の3つのP(Planet、People、Profit)が時代とともに、どのように変化してきたかを考えることで明らかになります。なぜ企業が、真剣に環境保全に取り組む必要性が高まってきたのかは、産業革命以降の経済・社会・地球の関係を分析すると解りやすくなります。また、私たちが目指すべき世界の姿も見えてきます。

1 産業革命以前の環境負荷は小さいものでした。
産業化が始まる以前は、人間社会から発生する環境負荷は、自然の回復力の範囲内に納まっていた。

2 産業革命以降、近年まで、地球環境へのダメージは増大し続けました。
イギリスで始まった産業革命は、またたく間に世界に広がり、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代が始まりました。人間は、図2のように、あたかも自然から独立したようにふるまい始め、人間社会が自然に与えるダメージは一気に増大しました。近年の地球環境の回復力を超えた負荷は、温暖化やオゾン層の破壊などを招き、海面の上昇による陸地の水没や、南方の疫病の北上、強力な紫外線による皮膚ガンの増加など、人間社会や経済にストレス(A)を与えてきました。また、社会の行き詰まりからもストレス(B)が発生し、経済にダメージを与え始めました。今や、環境保全は世界的な課題となっています。経済活動の主体である企業は、環境保全に真剣に取り組んでいないと、社会からの支持を得られなくなってきました。



3 現在、少しずつ循環型社会が構築されつつあります。現在の社会では、ごみの分別やリサイクル活動、省エネ活動など、地球環境へのダメージを減らすための活動が少しずつ拡大してきました。ものを大切に使い、資源を社会の中で循環させることにより、新たな資源の使用量も、廃棄するごみの量も削減できます。製造業にとっては、製品の長寿命・小型化、省エネ化、リサイクルなどを推進し、最小の資源で最大の社会的利益と企業利益を創出することが重要な課題になってきました。グローバル企業に対しては、今後大きな経済発展が予想される国や地域が、少ない環境負荷で経済発展を遂げられるよう、啓発や支援を行うことも求められています。一方で、森林保全や自然修復を行い、自然の再生能力の回復に努めることも重要です。



4 目指すべき姿は、環境負荷が自然の再生能力の範囲内に完全に抑えられている社会です。かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、人間社会は、再び自然の中に戻り、環境負荷を完全に自然の回復力の範囲内に留めていく必要があります。そのためには、温暖化防止・省資源・汚染予防の目標をもっと明確にしていくことも重要です。たとえば温暖化対策にしても、1990年比でどれだけCO₂排出量を削減できるかという考え方が一般的ですが、今後は地球の再生能力を念頭に置き、許容量を逆算し、その範囲内に排出量を抑えるべきでしょう。地球を再生させるという視点に立つと、何年何月までに産業界としてどんな目標を達成しなくてはならないのか、また一企業としてどう行動すべきか、まだまだあいまいな部分が多いのが現状です。私たちは、人類絶滅の危機を乗り越えるために、今までにない意識を持って、新しいチャレンジを始める必要があります。